

しいのき



街なかに残る農家のおもかげ

名誉館長 三 隅 治 雄

農村型社会から都市型社会への変貌をいち早く遂げた中野区では、かつての農村時代をしのばせる風景を見かけることも、まれになりました。わずかに、立ち並ぶ家のあいだをクネクネと迷路のようにうねる小径が、ああこれが昔の農道であったかと思ひ出させる程度です。大正9年(1920)、田山花袋が『東京紀行』で、「柏木から中野にかけては、都会の膨張して来ること夥しく、此頃では、邸宅別野相望むといふ風である」と記した当時からすでに70年余、青梅街道、中野通り近辺はもはやビルラッシュですが、それでも、中央4丁目の一画に、母屋の前庭を広く取り、柿の大木がそそり立つ、昔の農家のたたずまいを残した旧家がありました。歴代の当主が紋兵衛を名の高橋家で、墓碑から慶安年間(1648～51)から続いた名家とわかります。写真の建物は、大正11年のものですが、家の造りや残された農具から、額に汗して畑作りに精を出した中野農民のありし日のすがたが、しのばれます。

文化財よもやま話

大地に眠る歴史

神札

今年の4月に中野区中央のあるお宅から神札が大量に発見されました。下の写真は発見された時の様子を写したものです。4束ありますが、どれもしっかり縄で括られており、かなり埃が積もっています。そして、右2つの束が黒く煤けた感じになっているのがご覧頂けるでしょうか。実はこれらの神札は、天井裏の柱に括りつけてあったものなのです。そして黒く煤けているのは、囲炉裏の煤で燻されたからで、囲炉裏を使用していた頃の神札という事がわかります。



今、私たちにとって神札はどのような存在でしょうか。正月の初詣での折りなどに氏神様や檀那寺から請けてくるものがまずあります。旅先で購入する場合も考えられます。また縁結びや安産、病氣平癒に学業成就など人生の目的によってそれに見合った社寺に詣で、護符を得ることも多いと思います。そして、それらの神札を神棚に置いたり、家の柱に貼ったり、また身に付けたりするわけです。しかし、現在私たちは日常生活の中でどれほど神札や神札によって守護されているのを感じているのでしょうか。ひいては氏神様の様なかつては身近で毎日の生活の幸せを守護すると考えられた神様の存在を1年間でどれほど意識するのでしょうか。

このたくさんの神札の発見を機に今一度かつての人々の信仰について考えていきたいと思います。今よりも不安の多かったかつての暮らし。その中で人は神仏にどう守られていると考えたのでしょうか。今後、中野の信仰を知る上で貴重であるこれらの神札資料を整理していきます。その結果も含めしばらく神札を取り上げます。

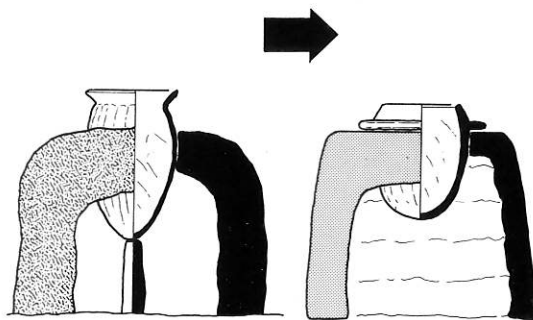
台所物語 8

(置きカマド・羽釜の登場)

さて、平安時代になりますと、それまで堅牢につくられていた竪穴住居もあまり地下に掘り窪めない簡単な造りとなり、同時にカマドも小さくなっていきました。これは政治の荒廃によって人々が一定のところに長く住まず、移動性が高かったためだと考えられます。

これらの影響から9世紀後半には、土製の移動式カマド（置きカマド）が登場しました。このカマドは従来のつくりつけと違い、住居内のどの場所でも、炊事ができるという非常に便利なものでした。また、地面を掘りこまないと設置できないつくりつけカマドと異なり、竪穴の必要がなくなり、土間が発達するきっかけともなったのです。

土間と寝る場所が分化したのもこのころといえるわけです。



そして、置きカマドに掛ける甕（カメ）も変化しました。それまで、甕をカマドに掛けたのち、下まで落ちないように底を支脚（しきゃく）で支えていましたが、このころは口の少し下に鐙（つば）をつけてカマドの掛け口にひっかかるような工夫をした羽釜（はがま）が発明されました。これが、現代でも使われている釜のかたちの源流となるのです。

このように平安時代中頃に登場した、置きカマドと羽釜は、その素材を粘土・鉄などと変えながらも今日まで脈々と続いているのです。

古文書つづり

背に腹は変えられません。酒を飲むことを我慢して、主食である米を食べることを優先したのです。苦しい時は、やっぱり我慢が必要です。

江戸時代の飢饉対策II

前回、江戸時代の飢饉対策として稗などを貯蔵している村のことを述べてきました。こうした飢饉の時、江戸時代の政府であった幕府も、全く無策であったわけではありません。ここでは、しばしば行われた政策の一つを紹介しましょう。

飢饉の時にしばしば幕府が命じた政策は、酒造高を減らすことでした。原料を米とする酒造高を減らすことで、米を少しでも多く残すように対応したのです。この政策は「酒造高減石令」などと呼ばれ、近世前期から飢饉の時にしばしば出されました。

本史料は、天保八年に「酒造高減石令」を受けて中野村名主堀江卯右衛門ほか周辺の村々が提出した請書です。史料によると、酒造高を平年の三分の一にすることを約束しています。

江戸時代の人々にとっても、お酒を飲むことは一日の疲れをいやす楽しみの一つでした。ただし、

差上申御請証文之事
酒造減石之儀去申年被 仰出候通弥無違失
相守追而御沙汰御座候迄三歩一造可仕段被
仰渡承知奉畏候依之御請連印奉差上候処如件
天保八酉年八月

天保八酉年八月

酒造減石之儀去申年被 仰出候通弥無違失
相守追而御沙汰御座候迄三歩一造可仕段被
仰渡承知奉畏候依之御請連印奉差上候処如件

中野往来

資料館で勉強して

丸山小6年生の感想文より

- ・私は歴史はあまり好きではありませんでした。でも、今日資料館へ行って、縄文時代や弥生時代の土器などを見ていると、だんだんおもしろくなってきました。
- ・見学したことを家族に話しました。中でも、家族が一番うらやましがったのは、縄文土器と弥生土器を手で持ったことです。何千年も前の物を持つなんて自分でも信じられませんでした。
- ・説明を聞いていると、昔のことが心の中にかんできました。大昔のくらしがよくわかってきました。これが大昔に作られた土器だと考えると、さわれたのがすごくうれしかったです。
- ・何千年も前に使っていた土器が、私たちのこんなにも近くにあるなんて、なんだかすごくドキドキします。

中野昔話

はなし

柿の木さ、柿の木にね、実がたくさんなってたと、ね。よく見たら葉がなかったと。

で「はなし」って。で、短い話。「はなしだよ」なんて。

(白鷺 男 明治43年生)

短い話

短い話で、雨だれポツンて、ポタンと落ちたって、それだけの話で。「雨だれポツン」てね。

(中野 女 明治36年生)

『中野の昔話・伝説・世間話』より

事業報告

各種事業経過

1994年4月～6月

事業名	内容	期間
企画展	「五月人形展」	4/23～5/14
	「新収蔵資料展」	6/1～6/30
史跡めぐり	「青梅街道コース」 講師 鎌田優氏 (『中野区の歴史』著者)	4/24
歴史講座	見方を知ろう文化財	6/18～7/30
	「仏像の見方」 講師 田中義恭氏 (茨城大学教授)	6/18
	「古建築の見方」 講師 宮崎勝弘氏 (日本民俗建築学会理事)	6/25
文化財調査	区内寺院文化財調査	継続中

寄贈資料一覧 1994年1月7日～1994年4月13日 敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
防火用水	1	芝崎 良太
五月人形・雛人形	2	白井 生三
木製冷蔵庫・幻燈機他	13	林 波満
醤油用樽・皮羽織他	28	浅田 庸一
弁当箱	2	三ツ矢守男
『新田堀江氏研究』他	4	堀江 政伸
唐箕・箕・石臼・攪拌機	11	石森製粉(株)
洋、和裁の教材他	17	高橋 つね
『民具学の提唱』	1	山崎 清司
柳行李・下駄他	7	小川 京子
『柳川の殿さんとよばれて』	1	御花 和雄
パン焼き器	1	藤本 夏子
目覚まし時計	1	岩瀬 文人
雛人形	一式	真田カズエ
祝膳・足高膳・火鉢・下駄他	多数	楠本 元子
五月人形・羽子板	一式	村山 浩一
羽子板・凧・幻燈機	11	ナザレットの家
雛人形掛軸・手鏡、櫛	2	藤田 彗つ

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

人事異動

3月31日付で、学芸係長岡地幸男が弥生地域センターへ、管理係渡辺博充が区議会事務局へ異動し、資料館調査員松村澄夫が退職しました。

◎どうぞお元気で……ありがとうございました。

4月1日付で、滝沢浩が文化スポーツ振興公社から、小島満子が収入役室から、また資料館調査員として矢島典雄が着任しました。

NEWS

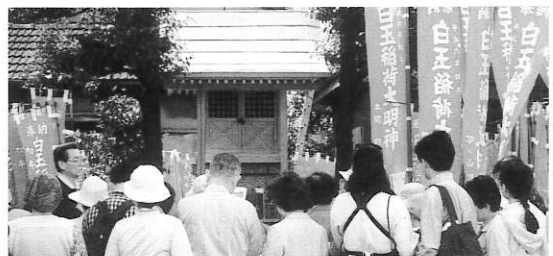
※次回企画展は「青梅街道中野村 みそ・そば・しょうゆ展」です。明治期に栄えた青梅街道沿いの産業を追求します。

※学童疎開50周年写真展同時開催
期間：7月19日(火)～9月10日(土)

※郷土学習相談室を開設

相談室も毎年恒例になりました。小中学生を対象に中野の歴史についての質問にお答え致します。

期間：8月23～26日の10～12時、1～3時迄
(9時30分から受付)



▲史跡めぐり、白玉稲荷神社にて

入館状況

1994年3月～5月(延76日間) (人)

一般	社教団体	学校教育	合計
13,834	229	973	15,036

発行年月日 1994年7月1日

山崎記念
編集・発行 中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 6中教社第2号)

新規登録文化財紹介

新規の区登録文化財を、中野区文化財保護条例第19条の規定により、中野区文化財保護審議会(会長三隅治雄)で検討の上、教育委員会において、下記のように決定いたしました。

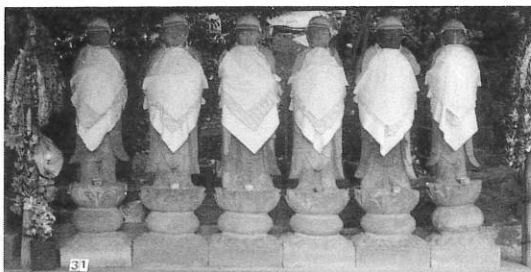
今回の登録は、遺存率の低い江戸中期以前を中心に、石造物を対象にしました。

地蔵

	年 代	形状	所在・管理
1	寛永17年(1640)	舟型	梅照院
2	明暦(1655~58)	丸彫	慈眼寺
3	寛文9年(1669)	舟型	慈眼寺
4	延宝2年(1674)	丸彫	成願寺
5	天和2年(1682)	舟型	実相院
6	元禄2年(1689)	丸彫	野方二公園西
7	元禄14年(1701)	丸彫	清谷寺
8	宝永5年(1708)	舟型	梅照院
9	正徳(1711~15)	丸彫	東光寺
10	正徳5年(1715)	舟型	上鷺宮1-2
11	享保10年(1725)	丸彫	正蔵院
12	享保16年(1731)	丸彫	白鷺2-48

六地蔵

	年 代	形状	所在・管理
1	宝永5年(1708)	丸彫	東福寺
2	寛延2年(1749)	丸彫	清谷寺
3	宝暦7年(1757)	丸彫	正蔵院
4	慶応2年(1866)	丸彫	実相院



▶ 4. 地蔵 延宝二年(一六七四)
成願寺



▶ 6. 地蔵 元禄二年(一六八九)
野方第二公園西側



▶ 7. 地蔵 元禄十四年(一七〇二)
清谷寺



▲ 1. 六地蔵 宝永5年(1708)東福寺

◀ 4. 六地蔵 慶応2年(1866)実相院

庚申塔

	年 代	形 状	所在・管理
1	寛文3年 (1663)	舟 型	東光寺
2	寛文3年 (1663)	舟 型	梅照院
3	寛文6年 (1666)	笠付型	禪定院
4	寛文8年 (1668)	笠付型	東福寺
5	寛文9年 (1669)	舟 型	氷川神社
6	寛文9年 (1669)	笠付型	実相院
7	延宝2年 (1674)	板碑型	江原観音堂
8	延宝4年 (1676)	板碑型	正蔵院
9	天和2年 (1682)	笠付型	福蔵院
10	貞享4年 (1687)	笠付型	清谷寺
11	貞享4年 (1687)	舟 型	野方二公園西
12	元禄元年 (1688)	舟 型	福寿院
13	元禄元年 (1688)	舟 型	正蔵院
14	元禄3年 (1690)	笠付型	慈眼寺
15	元禄4年 (1691)	笠付型	慈眼寺
16	元禄5年 (1692)	駒 型	北野神社
17	元禄6年 (1693)	笠付型	八幡神社
18	元禄9年 (1696)	笠付型	慈眼寺
19	元禄10年 (1697)	駒 型	実相院
20	元禄10年 (1697)	笠付型	実相院
21	元禄14年 (1701)	舟 型	北野神社
22	宝永4年 (1707)	笠付型	慈眼寺
23	正徳3年 (1713)	笠付型	沼袋4-33
24	正徳3年 (1713)	笠付型	実相院
25	正徳5年 (1715)	笠付型	実相院
26	享保13年 (1728)	笠付型	慈眼寺

▶ 1. 庚申塔(舟型)寛文三年
(一六六三年)東光寺



▶ 5. 庚申塔(舟型)寛文九年
(一六六九年)東野氷川神社



▶ 9. 庚申塔(笠付型)天和二年
(一六八二)福蔵院



11. 庚申塔(舟型)貞享4年(1687)
▼ 野方第2公園西側



15. 庚申塔(笠付型)
▼ 元禄4年(1691)慈眼寺

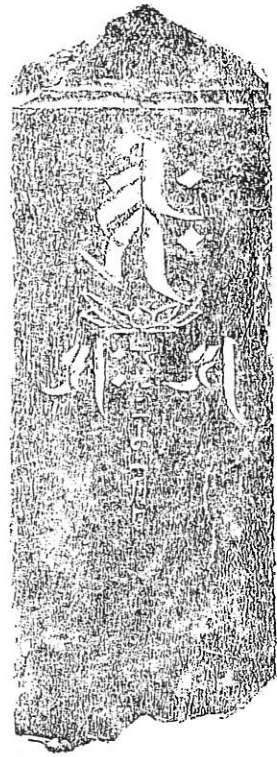


▶ 10. 庚申塔(笠付型)貞享四年
(一六八七)清谷寺

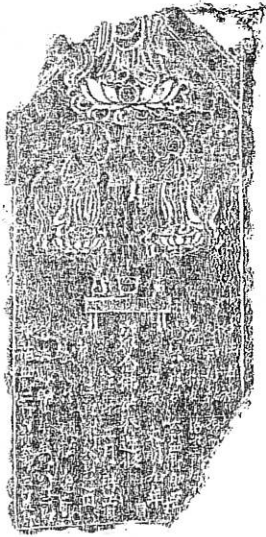


板 碑

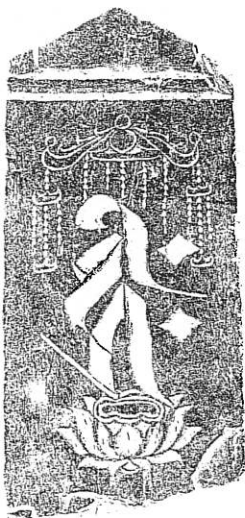
	年 代	種子等	所 在
1	永仁 3 年 (1295)	阿弥陀三尊	資料館
2	徳応元年 (1441)	阿弥陀三尊	資料館
3	文明 9 年 (1477)	阿弥陀来迎図	資料館
4	不 詳	阿弥陀来迎図	資料館
5	不 詳	阿弥陀一尊	資料館



1. 永仁 3 年(1295) 銘板碑



3. 文明 9 年(1477) 銘板碑



5. 阿弥陀一尊板碑



4. 阿弥陀来迎図板碑



2. 徳応元年(1441) 銘板碑

墓 石

	被葬者	年代	所在
1	河竹黙阿弥	明治26. 1. 22	源通寺
2	朱楽菅江	寛政12.12.12	青原寺
3	笠森お仙	文化10. 1. 29	正見寺
4	水野重郎左衛門	寛文 4. 3. 27	萬昌院 功運寺
5	歌川豊国	文政 8. 1. 7	萬昌院 功運寺
6	板倉重昌	寛永 15.1. 1	宝泉寺
7	新見正興	明治 2.10.18	願正寺

石碑・碑文

	名 称	年代・所在
1	本堂再建供養塔	安永 8 年 (1779) 梅照院
2	成趣園の碑	天保11年 (1840) 中央 1 - 17
3	中野公園の記	明治29年 (1896) 東中野氷川神社
4	道路改修記念碑	明治35年 (1901) 本郷氷川神社
5	鍋屋寄進の鳥居	文久 2 年 (1855) 東中野氷川神社
6	覚順の敷石記念碑	安政 6 年 (1859) 東中野氷川神社

▶ 河竹黙阿弥の墓
明治二六年(一八九三)源通寺



▶ 笠森お仙の墓
文化十年(一八一三)正見寺



▶ 板倉重昌の墓
寛永一五年(一六四二)宝泉寺



▶ 本堂再建供養塔
安永八年(一七七九)梅照院



▶ 覚順の敷石記念碑
(一八五九)東中野氷川神社
安政六年



▼ 中野公園の記
明治29年(1896)東中野氷川神社

